

ケアプランのない中国

政府管轄で
他職種連携

で、一人でできないことをしてあげるもの」という答えをよく聞きます。

ケアプランとは個を尊重し、個別性高く、効率のかつ効果的で、利用者にと喜びを感じてもらおうことを目標とします。その為には他職種連携が重要であり、要の役割をケアマネージャーが担うものだと思えます。

しかし中国には現在ケアプランが存在しません。介護主任のような立場の職員が、各々のオムツ交換やお風呂の時間を決めるなど、簡易な予定を立てるだけです。

なぜケアプランが無いのか職員に聞くと、「介護は家政婦の延長線上

また、「高齢者に何か目標を持ってもらうことや、医療介護他職種連携についても、政府管轄の違いにより区分けされているので、日本のような概念は今の中国には全くない」とのことでした。

自立支援の概念もなく、介護保険もない中国にとって、これは自然なことだと思います。また、中国にもケアプランがあれば良いが、これまでの慣習として、まず、本人や家族には、今より少しでも自立できるように目標を持ってもらうことは、ほぼ受け入れてもら

中国では「介護は家政婦の延長」

えない上、職員にもその概念が浸透しにくく、使いこなせる職員はそう多くないいだらうと言います。考えてみると日中高齢者人口の推移は、高齢者の数が人口の7%を超えた、いわゆる「高齢化社会」への突入時期は30年もの差があるため、社会的背景による危機感からの福祉施策状況も違って当然です。とはいえ、高齢者人口は今後更に加速する事は明らかであり、政府も介護保険制度導入の試行や検討を進めています。

上海市においても、介

ゲストハウス総経理
稲田義人



中国の 高齢者 マーケット

～介護・不動産事業の行方～

著者プロフィール

ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年、介護職員養成学校の立ち上げや日本式介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。

た、いわゆる「高齢化社会」への突入時期は30年もの差があるため、社会的背景による危機感からの福祉施策状況も違って当然です。とはいえ、高齢者人口は今後更に加速する事は明らかであり、政府も介護保険制度導入の試行や検討を進めています。

上海市においても、介護は家政婦の延長線上